

# Newsletter

Vol.55 2026.2.28

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会  
ニューズレターVol. 55  
会 長 遠藤伸子 (女子栄養大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	委員会活動報告・セミナー報告・・・・・・・・	4
2025年度総会・20周年記念行事を終えて・・	2	今後の教職課程や教員免許制度の在り方・・	5
分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	協議会活動報告・事務局からのお知らせ・・	6



## 副会長あいさつ

副会長 池添志乃  
(高知県立大学)

まだまだ寒い日が続いておりますが、会員校の皆さまには平素より多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。今年度の総会は、久しぶりに対面で開催することができました。画面越しでは伝えきれない皆さまの熱意や温かさに直接触れ、対面で集うことの意義を改めて実感する貴重な機会となりました。

日本養護教諭養成大学協議会は今年、20周年という大きな節目を迎え、記念行事を開催いたしました。多くの皆さまにご参加いただき、これまでの歩みを共に振り返る時間を持つことができました。大変嬉しく思っております。記念行事では、歴代の会長・副会長の先生方から心温まるメッセージを頂戴し、スライドショーとして上映いたしました。そのお一人おひとりの言葉には、養護教諭養成の歴史と、私たちが受け継いできた大切なつながりが凝縮されており、20年の積み重ねの重みを深く感じるひとときとなりました。

この20年の歩みの中で、私たちは多くの学びと支えを得て現在に至っています。その積み重ねがあるからこそ、未来へと確かな一歩をつなげていくことができます。養護教諭養成に携わる者としての使命の重さ、そして全国の先生方とのつながりの尊さを、改めて胸に刻む大切な時間ともなりました。

同時に、養護を「学問」として構築し、発展させていく意義についても考えを深める機会となりました。学問とは、知識や理論を体系化し、教育・研究・実践

を循環させながら発展させていく営みです。養護実践においても、理論的知見を活用し、エビデンスに基づく実践を積み重ねていくことが求められています。また、養護学を豊かにしていくためには、教育学・心理学・福祉学といった人文・社会科学、医学・生物学などの自然科学など、多様な学問領域の知を学際的に取り入れ、融合させていく姿勢が不可欠です。こうした知の構築を支え、会員校をつなぎ、それぞれの強みを生かした発展を促すことこそ、本協議会の重要な役割であると感じております。

さて、先日事務局よりご案内いたしましたとおり、3月4日(水)に「心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭を目指してー全国フォーラムー」が開催されます。本フォーラムは、文部科学省事業の成果報告として実施されるものであり、養護教諭養成や現職養護教諭の専門性にかかわる学問構築、そしてこれまで培われてきた専門性を大切にしながら、その力をさらに強化していくために開発した「養護教諭養成プログラム」および「現職養護教諭向け研修プログラム」を紹介いたします。養護教諭養成課程は、多様な学問的背景をもつ学部・学科で構成されており、それぞれが独自の強みを有しています。養護教諭養成においてコアとなる資質・能力を基盤としつつ、今後、養護教諭が福祉・心理等の専門職との連携をさらに円滑にしていくために、これまでの心理学・福祉学の知見をさらに深化させ、子どもや家庭へのより重層的な支援につながることを願っております。

社会情勢が大きく変化する中で、子どもを取り巻く環境も複雑さを増しています。こうした時代において、子どもの健やかな成長を支える養護教諭の育成に向け、協議会として今後も力を合わせて取り組んでまいります。会員校の皆さまとともに、その使命を果たしていけるよう努めてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2025年度総会・20周年記念行事を終えて

日時:2025年9月5日(金)

場所:きゅりあん(品川区立総合区民会館)

2025年度の総会は、9月5日(金)に品川区立総合区民会館きゅりあんにて開催いたしました。多くの会員校の先生方にご参加いただき、無事終了することができました(議決権を有する会員校132校のうち参加80大学、委任状52大学)。

遠藤会長より開会の挨拶がなされ、多くの会員の方々にご参加いただけたことに感謝が述べられました。総会議長として、大沼久美子先生(熊本大学)、新谷ますみ先生(弘前大学)が選出され、以下の議題が審議並びに報告されました。投票は赤白のカードを用いて行い、委任状を含め、過半数を超えた場合に承認といたしました。

- 議題1 2024年度事業報告:遠藤会長より報告され、承認されました。
- 議題2 2024年度決算報告:齋藤理事より報告され、承認されました。
- 議題3 2024年度監査報告:丹監査委員、成川監査委員により報告され、承認されました。
- 議題4 2025年度事業(中間)報告:遠藤会長より報告され、承認されました。
- 議題5 2025年度修正予算(案):齋藤理事より提案され、承認されました。
- 議題6 日本養護教諭養成大学協議会会則一部訂正及び日本養護教諭養成大学協議会役員会規程、日本養護教諭養成大学協議会理事

選出に関する規程の一部改訂:遠藤会長より提案され、承認されました。

議題7 2026年度事業計画(案):遠藤会長より提案され、承認されました。

議題8 2026年度予算(案):齋藤理事より提案され、承認されました。

今年度は日本養護教諭養成大学協議会設立20周年にあたり、総会に続いて20周年記念行事、講演が行われました。アンケートでは、総会の開催方法としてオンラインがよいというご意見の一方で、対面でしっかり参加できたというご意見もありました。20周年記念行事として流されたスライドが素晴らしかったというご意見を多くいただいたことを受け、メッセージをいただいた先生方に承諾を得てホームページでも見られるようにいたしました。森先生のご講演は、高等教育に携わる者として重要な学びであったというご感想を多くいただきました。会員校の皆さまのご協力のもと円滑に進められましたこと、あらためてお礼申し上げます。今後も会員校の皆様との交流をとおして、ニーズに沿った協議会運営を行いたいと思っております。今後ともご助言、ご支援をいただけますようお願い申し上げます。

(文責:三森寧子)

### 講演「社会の動向と大学の関係」(桐蔭横浜大学学長 森朋子氏)



森先生のご講演では、社会の多様化に伴う大学教育がどのようにパラダイムシフトし、養護教諭養成がそれにどう応えていくべきか、新たな指針をお示しく下さいました。背景にあるのは、激動のVUCA時代と18歳人口の急減です。先生は中央教育審議会の「知の総和と答申」を紐解き、今後の大学評価は「機関別」から「学部・学科単位」重視へ、そして「学生がどれだけ伸びたか」という学習成果の可視化へと軸足が移ると指摘されました。これは、従来の偏差値や立地に並ぶ、第三の教育力評価軸となります。

現代の養護教諭には、校内のコーディネーター役や組織的な健康相談、いじめ・虐待への早期対応など、多様で高度な役割が求められています。こうした専門職を育成するには、知識伝達に留まらず、自ら考え主体的に行動する「エージェンシー」や「学び続ける力」を育むことが不可欠とのことです。桐蔭横浜大学では、考動力や共感性など6つの資質「TOIN 6」を掲げ、学生を自律的学習者へと導く組織的な教育改革を推進されているそうです。教員と職員が一体となり、大学環境の総力を挙げて学生を伸ばす姿勢こそが、これからの不透明な時代における専門職養成の鍵となるとの貴重なご示唆を頂きました。

(文責:遠藤伸子)

## 分科会報告

## 第1分科会 養護教諭養成のこれから

—学校の現状、子供たちが抱える現代的課題に対応するための未来を見据えた養護教諭養成のあり方—

6班のグループに分かれ、以下のテーマから討論内容を決定し、グループ討議を行いました。その後各グループごとに討論内容を発表していただきました。

- ①これから必要とされる養護教諭の資質能力
- ②養護教諭の資質能力を習得するために必要とされる科目・カリキュラム
- ③養護教諭養成における学生の課題・支援

グループ討議では、多くの大学が養護教諭の資質能力について、同じ講座、学科教員の共通理解を持つことの難しさが挙げられました。また、資質能力を習得するために必要とされる科目・カリキュラムについても、さまざまな養成の背景や状況があるため、一つの方向性を見出すためには、時間をかけての深い議論が必要なこと、今後のコアカリキュラムの検討の中でさらに、議論を深めていく必要があるとの意見が出されました。時間が短かったため、本フォーラムでは、各大学の情報共有にとどまり、具体的な方向性を示すには至りませんでした。個々の大学が本テーマについて深く考えることで、さまざまな大学の課題を共有することができました。

(文責：鎌塚優子)

## 第2分科会

今知りたい、養護教諭養成コアカリキュラム2025

運営：カリキュラム・養成制度委員会

最初に、委員より、「養護教諭養成課程モデル・コア・カリキュラム2025(案)」を検討中であることを紹介しました。これまでの養護教諭養成課程モデル・コア・カリキュラムの変遷を踏まえ、医学・看護学等の近接領域のコア・カリキュラムと照合し、本協議会が2020年に策定した「養護教諭養成課程モデル・コア・カリキュラム(養大教版)2020」を基盤に、案を作成したことなど説明いたしました。

次に、参加者とのグループワークを行い、次のような意見・感想が得られました。

- ・内容的には網羅されていてよいが、レベルが高い
  - ・大学の特徴や多様性を認める方向性がよい
  - ・各大学で担っている「モデル」がよい
  - ・育成指標との整合性を見ていく必要がある
  - ・卒業後にアイデンティティの形成につながるようなカリキュラムになるとよい
  - ・A領域という傘の下にB～Gという具体的な領域があるのがよかった
  - ・B～Gの流れがもっとみえるようになるとなおよ
  - ・評価レベルを表す文末表現を見直すとよい
- おわりに、個別アンケートを収集し、さらに貴重なご意見をいただくことができました。今後に役立てていきます。

(文責：亀崎路子・今野洋子)

## 第3分科会

今しか聞けない採用試験の最新情報

講師：中西 茂氏

(元読売新聞編集委員、教育ジャーナリスト、協同出版「教育課程」客員編集委員)

前半では、中西氏より最近の教員採用試験の動向についてお話を伺いました。採用試験の早期化は進んでいるものの、大量の辞退者が生じている現状もあり、必ずしも成功しているとは言えないとのことでした。今後は、さらに早期化・長期化が進む可能性があることも指摘されました。学生にとっては複数回受験できる利点がある一方で、試験の長期化が心理的プレッシャーとなる場合もあり、学生のタイプに応じた個別的な指導の必要性が示されました。また、採用試験の共同実施は令和9年度からを目標としており、参加自治体は多数派になりつつあるものの、具体的な仕組みについては今後の議論に委ねられているとのことでした。

後半はグループに分かれ、各大学における採用試験への対応や課題について情報交換を行いました。早期化によりカリキュラム修了前に試験が実施されること、採用試験の重複による養護実習時期の調整の難しさ、対策の長期化・多様化に伴う学生・教員双方の負担増、さらに3年次で不合格となった場合に他職種へ流れてしまう懸念などが共有されました。

(文責：齋藤千景)

## 第4分科会

授業実践：学生の深い学びを促す発問

講師：川越 明日香氏

(熊本大学 大学教育統括管理運営寄稿 准教授)

事前に参加者に対して、川越先生が作成して下さった「学生の深い学びを促す発問」の動画を視聴していただきました。

ワークショップの冒頭に、「発問の機能を意識した問いを具体的に考え授業で活かせる形にすること」という目標を共有し、「問い」を立てるワークショップを進めました。

アイスブレイクでは、自己紹介を通して聴き手の態度が話し手の表現や安心感に与える影響を体感的に理解し、グループワークのための心理的安全性を確認しました。

個人ワークでは、自身が担当する科目名を中心に据え、関連キーワードを展開しながら、発問を機能別に検討するマンダラートを作成しました。

グループワークでは、個人で作成したシートをもとに、相互にアイデアを出し合いながらマンダラートの内容を補完しました。そして、再度個人で修正し、発問設計について具体的に理解することができました。

参加者は、積極的にワークに参加し、各自の担当する授業の見直し、振り返り、発展につながっていたように思います。まとめとして、学生に「何を」「どこまで」考えさせたいのかを明確にすること、ディプロマ・ポリシーやシラバス(学修目標)に立ち返った発問設計の重要性、教育の効果・効率・魅力を高めること、大学教員間で教育について語り合う文化を創造する必要性という、重要なメッセージを共有することができました。

(文責：三森寧子)

## カリキュラム（教育課程）・養成制度（法制度）検討委員会活動報告

本委員会においては、9月5日開催の2025年度養成教育セミナー第2分科会での意見を受けて、「養護教諭養成課程モデル・コア・カリキュラム2025（案）」について検討を重ねました。グループワークで得られた意見に加え、個別アンケートで得られた意見等を併せて整理し、①養護教諭養成カリキュラムについて話し合う機会を持つことの意義、②「モデル」を基に各大学が特徴を出し、相互交流によって高めることができるとよい。③内容は網羅的で指針として期待できる一方、4年間での達成が難しいと感じる。④卒業時到達すべき能力レベルは要検討、文末表記を見直すと良いのではないかと。⑤項目が多いのは養成者側には助かるが、学生には自身と向き合う時間、探求する時間がなさそうな印象。⑥全体像がわかりにくい。目指すべき姿に向かう教育の流れが見える全体像になると良い。⑦どんな養護教諭を育てていきたいか、A領域の中でも専門性が大切であり、深めていくのが良い。⑧文言や表記の整理。という8つの視点について検討を重ね、2026年1月12日の養成教育セミナーにつなげました。

### 養成教育セミナー「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラムを考える」報告

2026年1月12日開催

養成教育セミナーにおいては、「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム2025（案）」の概要を踏まえ、グループワークを行った。

#### 1. モデル・コア・カリキュラムとは何か

日本の教育システムにおいて、特定の分野で学生が到達すべき最低限の資質・能力や知識を示す指針のことである。各教育機関が共通して取り組むべき「コア」を抽出し、教育の質を保証するための全国的な基準となる。また、教育機関間の相互理解や連携を強化し、教育の質を向上させる役割を果たすものでもある。

#### 2. 「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム2025（案）」の概要

「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム2025（案）」は、①2020年に本協議会が策定した「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」の4領域を踏まえて、作成することとした。②2003年より開始された日本教育大学協会全国養護部門研究委員会によるモデル・コア・カリキュラムにおいては「養護実習」を含めた5領域が設定されている。一方、教職課程コアカリキュラムにおいて、養護実習は含まれていない。これらから、今回は、「養護実習」を含め、領域を改めて再構成することとした。③近接領域の専門職養成である医学教育・看護学教育・栄養学教育等のモデル・コア・カリキュラムが、7～8領域で構成されていることに着目した。

特に、「専門職として求められる基本的な資質・能力」や「専門的学問に関する研究」が明確に位置づけられている点にも着目した。以上を踏まえ、「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム2025（案）」は、7領域で構成することとした。

#### 3. グループワーク時の論点

モデル・コア・カリキュラムは、あくまで「モデル」としての役割を果たすものであることを踏まえ、セミナー時のグループワークにおいては、論点を以下の①～⑤の5つとし、各グループいずれかの論点について話し合う場を設定した。

- ①学生が卒業時に身に付けておくべき資質・能力が体系的に整理されているか
- ②各養成大学が共通して取り組むべき「コア」の部分が反映されているか。
- ③養護教諭養成教育の質を一定水準以上に担保する内容であるか。
- ④社会で求められる養護教諭として成長するための基盤を提供できる内容か。
- ⑤本モデル・コア・カリキュラムを基盤に、各養成大学が地域性や特色を活かした教育プログラムを柔軟に構築することが可能か。

現在、得られた貴重な意見を整理し、さらに委員会で検討を重ねているところである。

また、「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム2025（案）」についての説明動画を協議会のHPに掲載するので、ご覧いただくと幸いです。

## 委員会活動報告

### F D検討委員会

鎌塚優子（静岡大学）  
荒川雅子（東京学芸大学）

現在、2025年度3月に実施した障害学生支援のワークショップ及び事前・事後調査を基に報告書等の作成を検討している。また、今後各大学での障害者支援にかかわる研修や現職養護教諭研修、学生の授業教材として使用できるケースブックの開発を行っています。来年度中に、各大学への配布を検討しています。

#### (1) 会議報告

#### 第3回 F D 検討委員会

日 時・開催場所：2025年12月27日・静岡市  
参加者：荒川、鎌塚、酒井、柴田、武市、出口、波田野、森

内 容：FDの今後の方向性の整理、調査・研究班とケースブック作成班に分かれ作業

#### 班別委員会

##### 【調査・研究班会議】

日 時：2025年12月4日（オンライン）  
参加者：波田野、沖津、出口、荒川  
内 容：データの分析と、論文作成の方向性について

##### 【ケースブック作成班会議】

日 時：2026年2月2日（オンライン）  
参加者：鎌塚、酒井、柴田、武市、森  
内 容：ケースブック構成要素の検討

第4回 F D 検討委員会 3月18日全体会議（オンライン）での開催を予定しています。

### 広報・渉外委員会

西岡かおり（四国大学）  
鈴木裕子（国士舘大学）

本委員会は、ニューズレター（2回/年）の発行とホームページの更新、本協議会の活動報告の編集等を行っています。ホームページへのセミナーや講演等の告知や動画配信の設定を行っています。会員校の皆様への情報発信がタイムリーに行えるよう努めております。

ホームページ等でお気づきのことがありましたら、お声をお聞かせください。



## 今後の教職課程や 教員免許制度の在り方

2026年1月18日に今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（文部科学省より中間まとめ）が発出されました。ここでは免許法改正の方向性についてのみ資料から抜粋し言及します。

教職課程の見直しとして以下が示されました。

(1) 「学び続ける教師としての基礎能力」、身に付けた強み専門性を可視化し、かつ現職教員が保有する免許状の修士レベル化を目指すとともに大学と教育委員会・学校現場との連携を更に強化。

(2) 「教育職員免許法施行規則の見直し」

① 免許状取得に必要な事項・科目区分を以下に再構造化

- ・教科（領域）等の指導法
  - ・教育及び幼児、児童又は生徒の理解
- ② 新たな教育課題に対応する事項を追加
- ・次期学習指導要領の基盤となる考え方
  - ・教員養成フラッグシップ指定大学による先導的な取組

③ 大学と学生の自律的なカリキュラムデザインによる様々な強み専門性を持った柔軟な教職課程の実現

強み専門性の例：教科の専門性、指導法や児童生徒理解、他の免許や資格等

養護教諭・栄養教諭は、中学校をベースに、養護（栄養に係る教育）及び教職に関する科目に含めることが必要な事項及び単位数を見直すことが示されました。

単位数の詳細については、学校種ごと（幼稚園、小学校、中学校・高等学校、養護教諭・栄養教諭、特別支援学校）の各作業部会において検討を進めることとなります。また、方針として、現行の一種免許状と二種免許状は、基礎的な免許状として統合を図ることが示されています。これらの方針をふまえて、過日、第1回養護教諭・栄養教諭作業部会が開催されました（2026年1月29日）。議事録がHPに掲載されますので、ご覧ください。今後のスケジュールと致しましては、作業部会の議論の結果を受けて、再度教員養成部会で検討し、令和8年夏～秋頃に答申をまとめていく予定とのことです。

詳細情報については、「教員養成部会 教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ養護教諭・栄養教諭作業部会（第1回）配付資料（文部科学省）」をご確認ください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/c\\_hukyo3/125/siryu/mext\\_02270.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo3/125/siryu/mext_02270.html)

## 協議会活動報告

### 2025年度第4回役員会 オンライン開催

日時：2025年8月23日(土)17:00～19:00

<出席者>荒川, 池添, 遠藤, 鎌塚, 鈴木, 西岡, 三森  
(記録：鈴木)

<協議事項>20周年記念行事(総会・講演・企画・分科会・情報交換会)について

<報告事項>各委員会活動報告

### 2025年度第5回役員会

日時：2025年9月4日(木)18:00～20:00

場所：きゅりあん 第1講習室

<出席者>荒川, 池添, 今野, 遠藤, 鎌塚, 亀崎, 齋藤, 鈴木, 西岡, 三森  
(記録：西岡)

<協議事項>20周年記念行事について, 総会・講演, 分科会, 情報交換会について

### 2025年度第6回役員会 オンライン開催

日時：2025年10月13日(月・祝)17:30～19:00

<出席者>荒川, 池添, 今野, 遠藤, 鎌塚, 亀崎, 齋藤, 西岡, 三森  
(記録：三森)

<協議事項>20周年記念行事・総会・講演の振り返り, 会計について, 今後の運営について, 理事会役員の変動ならびに次期役員選挙について

<報告事項>各委員会活動報告

### 2025年度第7回役員会 オンライン開催

日時：2026年1月12日(月・祝)9:30～11:40

<出席者>荒川, 池添, 今野, 遠藤, 鎌塚, 齋藤, 鈴木, 西岡, 三森  
(記録：荒川)

<協議事項>2026年度総会等について, 20周年記念誌について, 次年度の役員体制について

<報告事項>各委員会活動報告

(庶務 三森寧子)

## 事務局からのお知らせ

協議会へのご意見やお問い合わせは、緊急の場合以外、事務局宛てメールにてお願い致します。事務局員は常駐しておらず、お電話ですと、女子栄養大学保健養護学研究室内の電話での対応になります。何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

### 【日本養護教諭養成大学協議会事務局】

〒350-0288 埼玉県坂戸市千代田3-9-21

女子栄養大学栄養学部保健養護学研究室

TEL/FAX 049-282-3609

Mail: [yogojimu@j-yogo.jp](mailto:yogojimu@j-yogo.jp) (事務局)

## 役員選挙の告示

今年度は、現理事の任期終了に伴い理事選挙を行います。役員会では、日本養護教諭養成協議会理事選出に関する規定(選挙管理委員会)の第1条に基づき選挙管理委員を次の方に委嘱しました。

委員長：両羽 美穂子(上智大学)

委員：岡本 陽 (愛知教育大学)

中澤 理恵 (十文字学園女子大学) 敬称略

また、理事選出にかかわる選挙日程は次のとおりです。

6月17日(水) 選挙に関する書類の送付

7月10日(金) 投票締め切り

7月18日(土) 開票ならびに該当評議員への連絡等

9月4日(金) 総会での報告

## 会計より

年度末を迎え、今年度の会計を取りまとめる時期となりました。来年度は理事選挙があり、選挙管理委員会の活動に関する予算を計上しております。また、20周年記念冊子の配布に伴う予算も計上されています。これらの詳細につきましては、総会にてご報告いたします。あわせて、2026年度分会費の納入をお願いいたします。入金確認の際、記帳の文字数制限により学校名が特定できない場合があります。振り込みの際には、学校番号を大学名の前にご入力いただき、「ガッコウホウジン」「ドクリツダイガクホウジン」等の法人名は記載せず、学校番号+大学名での入力をお願いいたします。

(会計担当：齋藤)

## 編集後記

今年度は、対面での総会、20周年記念事業、講演会等が行われ、多くの会員校の皆様が直接情報交換や交流を深められたのではないかと思います。

今号は、今年度の活動の報告が掲載されております。紙面を振り返ることで、本協議会の活動に関心を寄せていただけると嬉しいです。

(広報・渉外委員会：西岡かおり・鈴木裕子)

### 日本養護教諭養成大学協議会

<http://www.j-yogo.jp/>

### 【事務局】女子栄養大学

TEL&FAX：049-282-3609 (事務局)

Mail: [yogojimu@j-yogo.jp](mailto:yogojimu@j-yogo.jp)

